



インストール前

この章では、Unified CVP ソフトウェアをインストールする前に、実行する必要があるタスクを示します。



重要

Unified CVP インストーラを実行する前に、サーバで実行しているすべてのサードパーティのサービスおよびアプリケーションを停止する必要があります。一部のサードパーティのサービスおよびアプリケーションが、インストーラが必要とするファイルをロックしてしまう可能性があります（これは、インストールエラーの原因になります）。

- [ハードウェアおよびソフトウェアの要件, 1 ページ](#)
- [Security Agent のディセーブル化, 2 ページ](#)
- [VXML Server のインストール, 3 ページ](#)
- [ページング ファイルの増加, 4 ページ](#)
- [複数のイーサネット インターフェイス, 4 ページ](#)
- [関連ファイル, 4 ページ](#)
- [ライセンス計画, 5 ページ](#)

ハードウェアおよびソフトウェアの要件

Unified CVP ソフトウェアをインストールする前に、すべてのハードウェアおよび関連するソフトウェアの要件を確認してください。サーバに、ログファイルを格納するための十分な空きハードディスク領域があることを必ず確認してください。『[Hardware and Software System Specification for Cisco Unified Customer Voice Portal Software Release](#)』では、Unified CVP ソリューションの主要コンポーネント全体のプラットフォームハードウェアの仕様および互換性のあるサードパーティソフトウェアのバージョン要件が示されています。

また、必要なログスペースのサイジングなど、重要なサイジングに関する考慮事項については、『Cisco Unified Customer Voice Portal (CVP) Release Solution Reference Network Design (SRND)』を参照してください。

Security Agent のディセーブル化

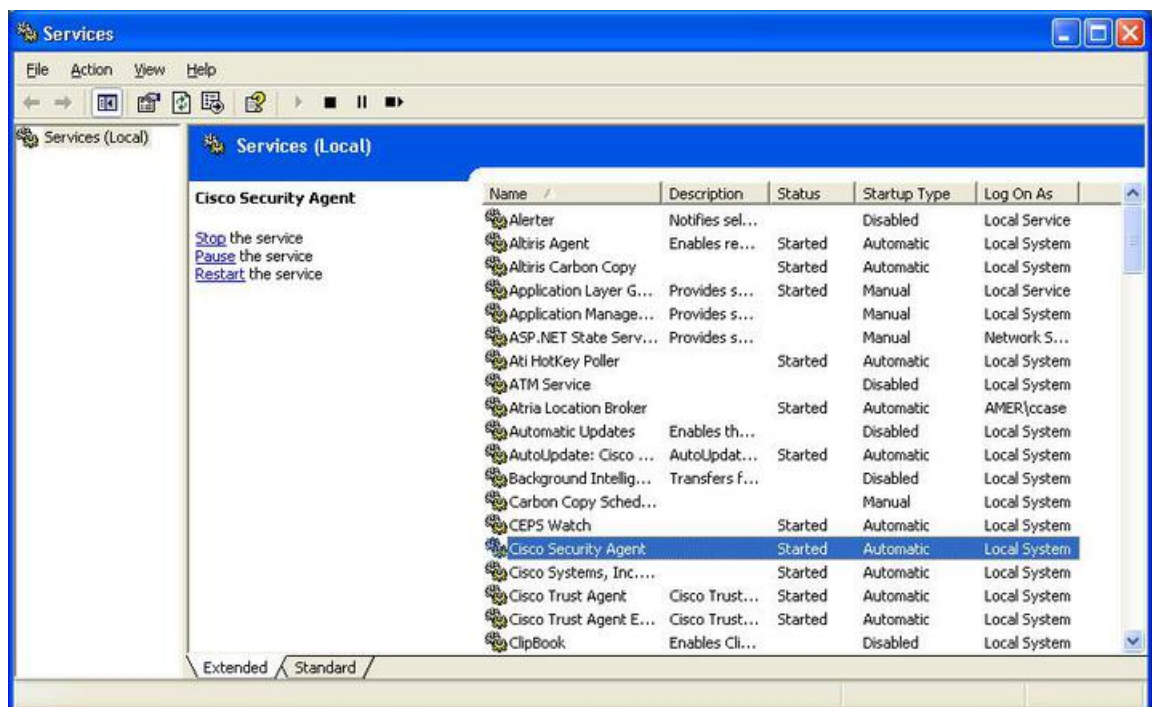
Cisco Security Agent がイネーブルでかつ実行されている場合、Unified CVP インストールプログラムを実行する前に、Security Agent をディセーブルにする必要があります。

Cisco Security Agent をディセーブルにするには、次の手順を実行する必要があります。

手順

- ステップ 1** Windows の [Start] メニューから [Start] > [Settings] > [Control Panel] > [Administrative Tools] > [Services] をクリックします。
[Services] 画面が表示されます。

図 1: Windows サービス画面



- ステップ 2** [Cisco Security Agent] を選択します。
ステップ 3 画面の左上隅にある [Stop the service] リンクをクリックします。
ステップ 4 [Cisco Security Agent Challenge] ダイアログボックスが表示された場合、ダイアログボックスで要求されるテキストを入力し、[OK] をクリックします。

Cisco Security Agent サービスが停止したら、[Services] 画面の [Status] 列で、Cisco Security Agent が [Started] としてリストされなくなります。

- ステップ 5** [Services] 画面の Cisco Security Agent エントリをダブルクリックします。
[Cisco Security Agent Properties] ダイアログボックスが表示されます。

図 2: CSA プロパティ ダイアログボックス



- ステップ 6** [Startup type] ドロップダウン リストから、[Disabled] を選択し、[OK] をクリックします。



(注) ソフトウェアをインストールした後、Cisco Security Agent サービスを再度イネーブルにする必要があります。サービスをディセーブルにすると、エージェントはサーバの侵入検知を行わなくなります。

VXML Server のインストール

CVP VXML Server のインストールを計画している場合、VXML Server コンポーネントが使用するアプリケーションサーバを選択する必要があります。VXML Server コンポーネントは、Unified CVP インストールプログラムに含まれる Apache Tomcat アプリケーションサーバを使用します。

ページングファイルの増加

Windows がプロセッサ時間およびメモリを使用する方法を変更することによって、すべての CVP マシンでパフォーマンスを向上できます。仮想メモリ ページングファイルの推奨サイズは、システムの RAM の容量の 1.5 倍程度です。



(注) このタスクを実行するには、管理者としてログオンする必要があります。

仮想メモリ ページングファイルのサイズを変更するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1 Windows の [Start] メニューから [Start] > [Settings] > [Control Panel] をクリックします。
- ステップ 2 [System] をダブルクリックします。
- ステップ 3 [Advanced System Settings] をクリックします。
- ステップ 4 [Advanced] タブの [Performance] の下にある [Settings] をクリックします。
- ステップ 5 [Advanced] タブの [Virtual memory] の下にある [Change] をクリックします。
- ステップ 6 [Paging file size for selected drive] の下にある [Custom size] をクリックし、[Initial size (MB)] ボックスと [Maximum size (MB)] ボックスに新しいページングファイルのサイズをメガバイト単位で入力して、[Set] をクリックします。
 - (注) 初期値と最大値は、同じ値に設定する必要があります。

複数のイーサネット インターフェイス

Unified CVP コール サーバに使用しているマシンでは、1 つだけイーサネット インターフェイスをイネーブルにする必要があります。2 つ以上のイーサネット インターフェイスがあるマシンに Unified CVP をインストールする場合、設定されていないとしても、余計なインターフェイスはディセーブルにする必要があります。イーサネット インターフェイスのイネーブル化またはディセーブル化については、Windows のマニュアルを参照してください。

関連ファイル

Unified CVP、またはその関連サービス リリースあるいはメンテナンス リリースのいずれかのインストールを試行する前に、その他すべてのアプリケーションがシャットダウンされ、開かれたファイルが閉じられていることを確認してください。また、Unified CVP インストールプログラムが必要とするファイルがロックされていると、インストールが失敗することがあります。

システムで McAfee® VirusScan® を使用している場合、VirusScan コンソールを起動し、[Access Protection] を右クリックして、プロパティを選択します。[File, Share, and Folder Protection] タブを選択し、Unified CVP インストールプログラムが必要とするファイルまたはフォルダをロックする規則をディセーブルにします。別のアンチウイルス製品を使用している場合、その製品のファイルおよびフォルダの保護規則でも同様のファイルブロック除外を実行する必要があります。

ライセンス計画

Unified CVP ライセンシング

Unified CVP には、30 日間の評価ライセンスがあります。コールサーバおよび VXML Server の評価ライセンスでは、すべてのコール制御サーバで、これまでサポートされていた 2 個のポートの代わりに、30 個のポートがサポートされるようになりました。また、これまでサポートされていた 5000 回の Reporting Server DB Write の代わりに 10,000 回の DB Write がサポートされるようになりました。30 日後、引き続き機能させるには、Unified CVP のライセンスを取得する必要があります。

Unified CVP では、CVP システムのすべてのライセンス許諾されたコンポーネント（コールサーバ、Reporting Server、VXML Server、および Call Studio）に対して FlexLM ライセンシングがサポートされます。

Unified CVP では、以下の 4 つのタイプのライセンス機能がサポートされます。

- **CVP_SOFTWARE** : Unified CVP 9.0(1) に必要な基本機能ライセンス。このライセンスを使用できない場合、Unified CVP は評価モードで実行され、すべてのポートライセンスは無視されます。この機能は、9.0(1) バージョンである必要があります。リリース 8.5(1) の CVP_Software ライセンスは、Unified CVP Release 9.0(1) では機能しません。
- **CVPPorts** : コールサーバのポートのライセンス。
- **RPT** : Reporting Server のライセンス。
- **SelfServicePorts** : VXML Server のポートのライセンス。



(注) **CVP_SOFTWARE** 基本機能ライセンスは、コールサーバ (CVPPorts)、Reporting Server (RPT)、および VXML Server (SelfServicePorts) のライセンスに含める必要があります。

すべての CVP デバイス (CVP コールサーバ、CVP Reporting Server、CVP VXML Server、CVP VXML Server (スタンドアロン)) の CVP ライセンスは、%CVP_HOME%\conf\license にある cvp.license ファイルで集約されます。ライセンスが Operations Console を介して適用されるたびに、ライセンスは cvp.license ファイルに追加されます。複数の有効な VXML ライセンスがライセンスファイル内に存在する場合、ポートは加算されます。たとえば、1 つの CVP ライセンスファイルに 200 個の VXML ポートがあり、1 つの追加ライセンスが 100 個の追加 VXML ポートに適用される場合、VXML Server は、両方のライセンスを追加し、300 個のライセンス許諾されたポー

トを作成します。コールサーバおよび Reporting Server では、加算ライセンス機能はサポートされません。

CVP Reporting Server が起動すると、メッセージのカウンタを開始します。メッセージがデータベースに書き込まれるためたびに、CVP Reporting Server はローカル日付をチェックします。1日のデータベースの書き込み（挿入と更新の両方の合計）が 10,000 回に達すると、警告が送信され、メッセージはデータベースに書き込まれなくなります。ローカル日付が変わると、データベースの書き込みが再開し、カウンタも再開します。



- (注)
- リリース 9.0(1) では、CVP Video Media Server は、サポート対象のインストールオプションではありません。
 - CVP は、ライセンスの使用状況をレポートしなくなりました。その代わりに、`cvp.license` ファイルでの使用可能なポートの最大数に基づいたポートの使用状況をレポートします。この変更は、すべてのレポート、OAMP 統計ページ、および診断ポータル ライセンス情報要求に影響します。以前のリリースと同様、警告はライセンス使用状況の 90%、94%、および 97% のしきい値で発行されます。

『*Solution Reference Network Design Guide*』では、CVP コンポーネントとポートのライセンスが付与される方法に関する詳細情報が提供されます。

ライセンス要求

新しいシステムをインストールしている（アップグレードではない）場合、PAK（製品認証キー）が必要です。PAK を <http://www.cisco.com/go/license> で入力して、新しいシステムにアップロードできるライセンスを生成します。

関連トピック

[ライセンス](#)

ライセンスのアップグレード

既存のシステムをリリース 7.x または 8.x からリリース 9.0(1) にアップグレードする場合、契約番号を Cisco ライセンス ツールに入力します。（<http://www.cisco.com/go/license>）。このツールによって、アップグレードの権利が確認され、PAK（製品認証キー）が返されます。アップグレードする権利がない場合、PAK を購入するオプションが表示されます。PAK を取得したら、その PAK を Cisco ライセンス ツール（<http://www.cisco.com/go/license>）に入力し、ライセンスファイルを受け取ります。



- (注) VXML Server を 7.0(2) から 9.0(1) にアップグレードするときにライセンスが必要な各 CVP VXML Server に対して、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** 古いライセンスを %CVP_HOME%\VXMLServer\license フォルダに残しておきます。
- ステップ 2** Op Console で、[System] > [License Conversion] に移動します。ライセンス変換が必要な [VXMLServer(s)] を選択し、[Convert] をクリックします。
- ステップ 3** [Conversion Status] をクリックします。[Conversion Status] ページの [VXMLServer(s)] を選択し、[Export] をクリックします。エクスポートされたファイルで、<?xml version='1.0'?> で始まり、</LicenseUpgrade> で終わる XML 文字列のみを選択し、その文字列をクリップボードにコピーします。
- (注) この XML は、VXMLServer in %CVP_HOME%\conf\license\licenseconversion.txt でも見つけることができます。
- ステップ 4** XML 文字列をクリップボードにコピーしたら、<http://www.cisco.com/go/license> に移動します。このページで、[Upgrade License] をクリックしてから、[CVP Version Migration] をクリックします。このページの手順に従います。VXMLServer の IP アドレスを入力します。CVP License Conversion ユーティリティによって生成された XML 文字列を貼り付けます。ライセンス契約書を読み、[Agreement] チェックボックスをクリックします。新規ライセンスが電子メールで送られてきます。

次の作業



- (注) ライセンスがアップグレードされるまで、VXML Server は、評価モード (30 ポート) で動作します。ライセンス変換機能は "SelfServicePorts" 機能ライセンスを生成しますが、ライセンスツールの PAK を使用して、"CVP_SOFTWARE" 機能ライセンスを取得する必要があります。"CVP_SOFTWARE" 機能は、アップグレードする前に取得できますが、SelfServicePorts 機能はアップグレード後に取得する必要があります。

関連トピック

[ライセンス](#)

